学校便り「戸町っ子」No.１３

「はきものをそろえる」

　子供が下校した後のある学級の靴箱は、全員の上靴のかかとが、まるで見本のようにピタリとそろっています。それも毎日です。整然と並んだ上靴は、見ているこちらの心まで清々しく整えてくれるようです。

　その学級では、４月、担任の先生から「ぬいだ後の履物は、その人の心を表している。」という話があったそうです。その言葉を自分たちなりに受け止めた子供たちは、一日一日、履物そろえを続けました。そして、その陰には、毎日欠かさず靴箱を確認し、子供たちの小さな頑張りに寄り添い、励まし続けてきた担任の姿もありました。

　履物をそろえるという一見小さな習慣は、ぬいだ後に一呼吸おき、次に使う人や場所を思いやる「心のゆとり」から生まれます。その一瞬の心の余裕が、丁寧な挨拶や落ち着いた学習態度、安全な生活へとつながっていくのだと、改めて感じました。

　靴箱やトイレのスリッパなど、自分たちが使っている履物をそろえることを通して、内面から輝く「すてきな戸町っ子」を、学校と家庭で共に温かく見守り、育てていきたいと考えています。

校長　原口徹弥